

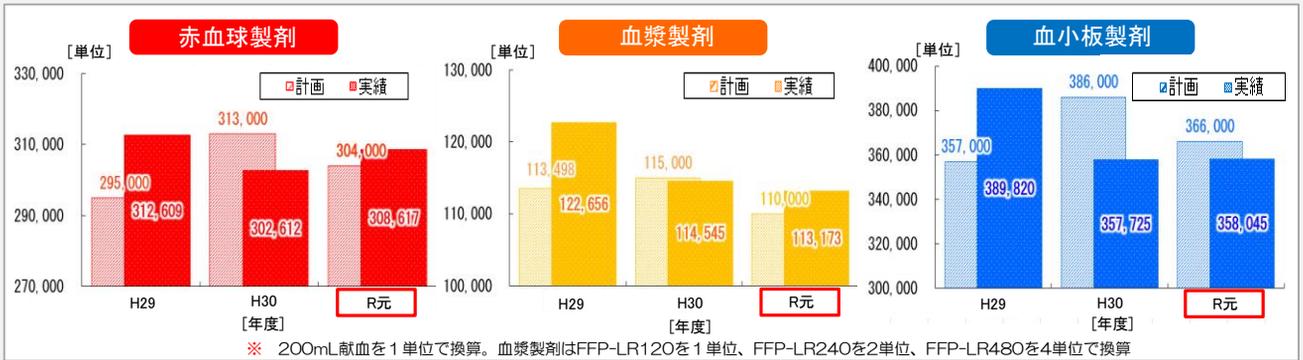
千葉県のご供給・献血状況

令和元年度の概要

千葉県では、平成29年度まで輸血用血液製剤の需要が高い状況が続いておりましたが、令和元年度は平成30年度に続き増加傾向が落ち着いた状況となり、延べ **779,835 単位**（対前年度比100.6%）を県内医療機関にお届けしました。この需要に対応するため、県内6カ所の献血ルームと10台の献血バスで延べ **221,834 名**（対前年度比101.6%）の皆さまに献血のご協力を頂きました。医療機関からの需要が高い400mL献血や成分献血を中心としたご協力と、献血ルームにおける予約献血がより一層の安定供給に繋がりました。なお、台風第15号・19号や新型コロナウイルス感染症の影響により、主に移動採血バス会場で献血の中止や延期が発生しましたが、他県との調整、報道やSNSによる献血呼び掛け、メールなどの献血要請により多くのご協力を頂き、医療機関に遅滞なく血液をお届けしました。

年齢別の献血状況は20代～40代の各年代で減少しており、安全な血液製剤を安定的に医療機関へお届けするため、これからの献血を支える若年層の方々をはじめ、より多くのご協力が必要とされています。

輸血用血液製剤供給状況（過去3年間の状況）



令和元年度の輸血用血液製剤需要は、平成30年度と同程度の状況となりました。

献血状況と供給状況

区分	献血状況 [人]		
	令和元年度 目標数	実績数 (対計画比[%])	対前年度 実績増減数
400mL献血	154,254	149,175 (96.7%)	▲ 3,512
200mL献血	4,801	7,061 (147.1%)	▲ 25
血漿成分献血	45,634	44,486 (97.5%)	7,050
血小板成分献血	21,975	21,112 (96.1%)	59
合計	226,664	221,834 (97.9%)	3,572

医療機関需要の高い400mL献血および血小板成分献血とともに、近年、需要が急増している血漿分画製剤用の血漿成分献血にも多くのご協力を頂きました。

区分	供給状況 [単位]		
	令和元年度 計画数	実績数 (対計画比[%])	対前年度 実績増減数
赤血球製剤(400mL献血由来)	299,370	302,038 (100.9%)	6,128
赤血球製剤(200mL献血由来)	4,630	6,579 (142.1%)	▲ 123
血漿製剤	110,000	113,173 (102.9%)	▲ 1,372
血小板製剤	366,000	358,045 (97.8%)	320
合計	780,000	779,835 (100.0%)	4,953

県内医療機関の需要に見合うご協力を頂きました。なお、成分献血(平日)の予約によるご協力が供給の安定化に大きな力となりました。

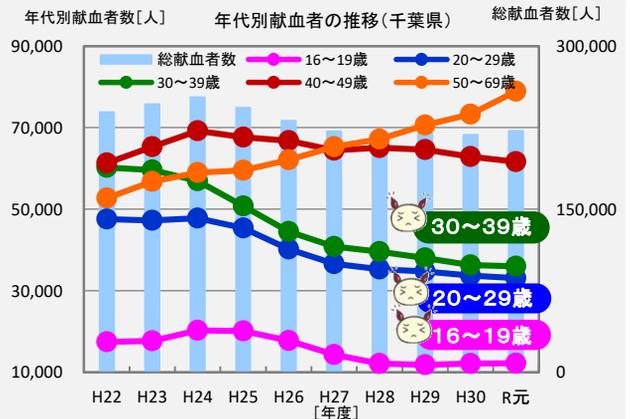
年代別献血状況

千葉県では、若年層(10代～30代)の献血者数が10年前に比べて35.1%減少しました。今後の献血基盤となる若年層にご協力をお願いするため、大学・専門学校・高等学校等における献血実施、献血セミナーの開催、千葉県学生献血推進協議会メンバーによる同世代への献血啓発、献血ルームにおける職場体験やキャンペーンなどを通じて、献血の普及啓発を行って参ります。

若年層(10代～30代)の献血者数

平成22年度 125,228人 → 令和元年度 81,300人

10年で約35.1%減少



令和2年度供給計画・献血目標

千葉県のと令和2年度の供給計画数は、近年の県内医療機関の輸血用血液製剤の需要動向、輸血用血液製剤の供給予測数及び血漿分画製剤の製造に必要な原料血漿の当血液センター確保制当量を基本として策定しました。

献血目標数は医療機関からの需要の高い400mL献血、高単位血小板成分献血(分割血小板)および分画製剤製造用血漿成分献血に重点を置いており、令和2年1月29日に開催された千葉県献血推進協議会において供給計画数780,000単位、献血目標数227,379人と決定しました。

区分	令和2年度供給計画 [単位]			
	令和2年度計画数	令和元年度計画数	増減	増減比(%)
全血製剤	0	0	0	-
赤血球製剤	308,000	304,000	4,000	101.3%
血漿製剤	114,000	110,000	4,000	103.6%
血小板製剤	358,000	366,000	▲8,000	97.8%
合計	780,000	780,000	0	100.0%

区分	令和2年度献血目標 [人]			
	令和2年度目標数	令和元年度目標数	増減	増減比(%)
400mL献血	152,511	154,254	▲1,743	98.9%
200mL献血	4,699	4,801	▲102	97.9%
血漿成分献血	49,655	45,634	4,021	108.8%
血小板成分献血	20,514	21,975	▲1,461	93.4%
合計	227,379	226,664	715	100.3%

令和2年度供給計画値は、医療機関需要動向から概ね令和元年度計画値と同程度となりました。

近年、血漿分画製剤の需要が高まっていることから、昨年度に引き続き、血漿成分献血目標数が増加しています。

献血の輪が広がりますように

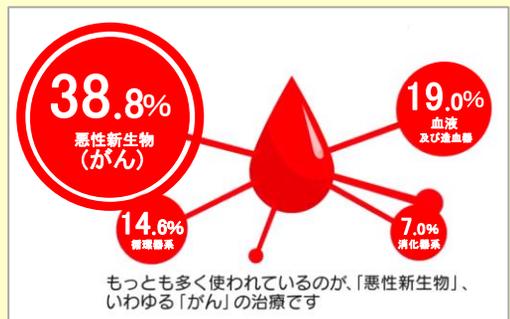
輸血用血液の多くは「がん」や「白血病」等の病気の患者さんの治療に使用しております。患者さんが安心して輸血医療を受けられるよう、より多くの皆さまのご協力をお願いいたします。

Q. いつも献血のお願いをしているのは、なぜ？

A. 病気の治療では、1度で数人分の血液を使用したり、定期的な輸血が行われることから、1人の患者さんを何人も献血者で支えています。一方、安全面を考慮し1人の方から短期間に何度も献血にご協力いただくことはできません。また、輸血用血液には有効期間(※)があり、長期保存が出来ないことから、継続的なご協力をお願いしています。

※ 輸血用血液製剤有効期間

【赤血球製剤】 採血後21日間 【血小板製剤】 採血後4日間



出典：東京都福祉保健局(2018年)調べ

輸血治療を経験された方から寄せられたメッセージをご紹介します

特設サイト「M+ station」より

命の支え (ペンネーム：ミッキー1221さん)

25歳のときに胃の痛みと下血をし、一週間くらいたった時でしょうか。階段を上ったときに激しい息切れとめまいを感じました。胃腸科病院に行って検査をしたら、すぐに緊急入院で、輸血および絶食と点滴、翌日に胃の内視鏡手術や止血剤の投与などをしました。そのとき、一週間の輸血と点滴を経験し、苦しい大変な一週間でしたが、一命を支えてくれた輸血と最新医療とお医者さんや看護師さんに感謝、感謝の思いでした。

生きる力 (ペンネーム：しもーぬさん)

私は24歳のときに悪性リンパ腫という血液のがんの影響で輸血を経験しました。白血球を増やす薬がありますが、赤血球を増やす薬はありません。輸血がなければ生きていくことができません。今までに多くの方々に献血にご協力頂き、私は輸血によって今を生きていくことができます。生きる力をくださって本当にありがとうございます。

献血ルームのご案内

柏献血ルーム (柏駅東口榎本ビル5階) Tel 04-7167-8050	松戸献血ルーム Pure (松戸駅西口松戸ビル1階) Tel 047-703-1006	献血ルームフェイス (船橋駅南口フェイスビル7階) Tel 047-460-0521	津田沼献血ルーム (津田沼/バルコB館6階) Tel 047-493-0322	モノレールちば駅献血ルーム (モノレール千葉駅構内) (千葉県市川モノレール千葉駅構内) Tel 043-224-0332	運転免許センター献血ルーム (千葉運転免許センター内) (千葉運転免許センター内) Tel 043-276-3641
---	--	---	--	---	--

献血ルーム受付時間
 ●成分受付▶10:00~12:00/14:00~17:00
 ●400mL(200mL)受付▶10:00~13:00/14:00~17:30
 ●定休日▶年末年始

運転免許センター献血ルーム受付時間
 ●400mL(200mL)受付▶9:00~13:00/14:00~16:30(日曜日は1時10分迄です。)
 ●定休日▶土曜日・祝日・年末年始
 ※運転免許センター献血ルーム(千葉市)では成分献血の受入は行っていません。